





# 数 学

問題 4 ページ～7 ページ

設 問 数 15

1. 次の問 (1) ～ (10) の解答を解答群 (ア) ～ (エ) から選べ。

(1)  $(x+1)(x+3)(x+5)(x+7)$  を展開した式の  $x^2$  の係数を求めよ。解答番号は (1)。

(ア) 16                      (イ) 86                      (ウ) 176                      (エ) 105

(2)  $\sqrt{12+6\sqrt{3}}$  の整数部分を求めよ。解答番号は (2)。

(ア) 1                      (イ) 2                      (ウ) 3                      (エ) 4

(3)  $P: xz = yz$ 、 $Q: x = y$  のとき、 $P$  は  $Q$  であるための何であるか。解答番号は (3)。

(ア) 十分条件である                      (イ) 必要条件である                      (ウ) 必要十分条件である

(エ) 必要条件でも十分条件でもない

(4) 100 人の学生に数学と英語の試験を行ったところ、数学の試験に合格した学生は 75 人、2 教科とも合格した学生は 17 人、どちらにも合格しなかった学生は 11 人であった。このとき、英語の試験に合格した学生の人数を求めよ。解答番号は (4)。

(ア) 5 名                      (イ) 10 名                      (ウ) 31 名                      (エ) 89 名

- (5) 大小2つのサイコロを同時に投げたとき、出る目の積が4の倍数になる確率を求めよ。  
解答番号は(5)。

(ア)  $\frac{1}{18}$                       (イ)  $\frac{5}{36}$                       (ウ)  $\frac{13}{36}$                       (エ)  $\frac{5}{12}$

- (6)  $a+b+c \neq 0$  のとき、 $\frac{b+c}{a} = \frac{c+a}{b} = \frac{a+b}{c}$  の値を求めよ。  
解答番号は(6)。

(ア)  $-2$                       (イ)  $-1$                       (ウ)  $1$                       (エ)  $2$

- (7) 次の不等式を満たす整数  $x$  の個数を求めよ。解答番号は(7)。

$$|2x+3| < 4$$

(ア) 4 個                      (イ) 3 個                      (ウ) 2 個                      (エ) 0 個

- (8) ある仕事をするのに、A 君は 24 分、B さんは 18 分、C 君は 12 分かかる。この仕事を A 君と C 君の 2 人で 50% 働き、その後 B さん 1 人で残りの 50% の仕事をする と全部で何分かかかるか求めよ。解答番号は(8)。

(ア) 5 分                      (イ) 7 分                      (ウ) 11 分                      (エ) 13 分

(9) 生徒が 40 人のクラスで数学の試験を実施したところ、平均点は 63.1 点であった。男子の平均点は 64 点、女子の平均点は 62 点であった。このクラスの男子の人数は何人か、求めよ。解答番号は (9)。

- (ア) 18 人                      (イ) 22 人                      (ウ) 26 人                      (エ) 25 人

(10) A 地点と B 地点を自動車で行き来する。行きは時速 40 km、帰りは時速 60 km の場合、往復の平均時速を求めよ。解答番号は (10)。

- (ア) 45 km                      (イ) 48 km                      (ウ) 50 km                      (エ) 55 km

2.  $\triangle ABC$  において  $AB = 7$ 、 $BC = 4\sqrt{2}$ 、 $\angle ABC = 45^\circ$  のとき、次の値を求めよ。

解答は裏面の解答欄に記入すること。

(1)  $AC$  の長さ  $x$  を求めよ。解答番号は (11)。

(2)  $\triangle ABC$  の面積  $S$  を求めよ。解答番号は (12)。

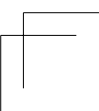
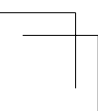
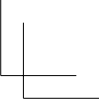
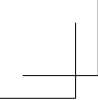
(3) 内接円の半径  $r$  を求めよ。解答番号は (13)。

3.  $-1 \leq x \leq 1$  のとき、 $f(x) = x^2 - 2ax + a$  ( $a > 0$ ) の最小値を  $m$ 、最大値を  $M$  とする。

次の問に答えよ。解答は裏面の解答欄に記入すること。

(1)  $0 < a \leq 1$  のとき、 $m$ 、 $M$  を  $a$  の式で表せ。解答番号は (14)。

(2)  $1 \leq a$  のとき、 $m$ 、 $M$  を  $a$  の式で表せ。解答番号は (15)。







- (d) 焼き場に死体が置かれると、運んできた物乞いたちの口から小さく「オムマニペメフム」の真言が唱えられ始める。それが日本における「南無阿弥陀仏」の念仏のようで、見知らぬ死者を送るための、美しい葬送の歌のように聞こえ、自分の心まで浄化されるような気持ちになったため。
- (e) 正しく判断してひどい目にあうのは馬鹿らしいと考えていたから。

問七

傍線③「オムマニペメフム」は何のためのものとして唱えられているか、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は(31)。

- (a) 見知らぬ死者を浄土に送るためのもの
- (b) 物乞いの臨時収入を得るためのもの
- (c) ネパール人の結婚式の儀式の一部として
- (d) 街頭で喜捨を受けるためのもの
- (e) チベット人の物乞いが担ぎ手になるための祈り

問八

傍線④「聖と言ひ、卑と言う。だが、聖の中にも卑はあり、卑の中にも聖は存在する。」という言葉の意味を、本文を参考に一五〇字～二〇〇字で説明せよ。解答番号は(32)。

問四

空欄

あ

お

に入る語として最も適切なものを、それぞれ一つずつ選べ（各語の使用回数は1回）。解答番号は (24) ～ (28)。

- (a) しかし (b) というのは (c) ただ (d) やがて (e) つまり

問五

B

に入る最も適当なものを一つ選べ。解答番号は (29)。

- (a) あそこでも、聖なる刻を過ごすことができないだろうか。  
(b) あそこでは、間違いなく卑なる刻を過ごすことはできる。  
(c) あそこでは、間違いなく聖なる刻を過ごすことはできない。  
(d) あそこには、間違いなく卑なる刻があった。  
(e) あそこにも、間違いなく聖なる刻があった。

問六

傍線②「それでも、自分は、その卑なる場所で、何度となく聖なる刻を味わうことがあった。」のはなぜか。最も適切なものを、一つ選べ。解答番号は (30)。

- (a) カリンポンの街の住人たちは、家に死人が出ると、焼き場まで死体を運んでもらうために、物乞いたちを雇うことが多くその理由はネパール人を雇うより安くすむことや、物乞いに多いチベット人の方が屈強で、担ぎ手として長い時間耐えられると思われていたため。  
(b) 冠婚葬祭のうちの「婚」と「葬」において、物乞いたちは臨時の収入の機会があったため。  
(c) 足の凍傷のために担ぎ手にはなれなかったが、皆と一緒に火葬場に行き、喪主が用意した食べ物を貰ったり、時には布施金のようなものを受け取れたため。

(エ) ナタネ

- (a) ナラの大仏
- (b) アオナを食べる
- (c) ナツケ親になる
- (d) ナダレが崩れ落ちる

(オ) ジョウド

- (a) ジョウモン時代の道具
- (b) ニンジョウがある街
- (c) ジジョウ作用がある食べ物
- (d) ジョウホウ化社会

問二 傍線①西川が「それも修行だと思って、耐えた。」のはなぜか。最も適切なものを、一つ選べ。解答番号は(22)。

- (a) デブン寺の大学堂で、ダライラマを玉座に迎えての大供養会が行われたため。
- (b) デブン寺で暮らすラマ僧としての生活に慣れ、周囲の蒙古人のラマ僧たちからも信頼されたかったため。
- (c) 合う靴がなく素足で、冬は凍るような石畳を歩くのがつらかったが、それもラマ僧修行の一つだと考えたため。
- (d) 冬は零下二十度にも下がり、凍るような石畳を歩いたが、仏教の学びをしているため心を暖かくすることができたため。
- (e) デブン寺の修行十一月の新学期が訪れ、二年に進級できたため。

問三

A

には、イシ師の言葉が入る。最も適当なものを一つ選べ。解答番号は(23)。

- (a) 手伝いをさせられてかわいそうだ
- (b) 西川には苦もないことだろう
- (c) ラマ僧としての生活に慣れてきたから
- (d) 人のいやがる労役に出ることはとてもよいことだ
- (e) 余計なことには関わりたくない

が唱えられはじめる。それが日本における「南無阿弥陀仏」の念仏のようにしばらく続けられているうちに、ばらばらだった声がいっ  
のまにかひとつになっている。

自分には、そのひとつになった「オムマニペメフム」は、見知らぬ死者を<sup>(オ)</sup>ジョウドに送るための、美しい葬送の歌のように聞こえる  
ことがあった。そして、自分の心まで浄化されるような気持ちになったものだった。

④ 聖と言ひ、卑と言う。だが、聖の中にも卑はあり、卑の中にも聖は存在する。

たぶん、どこにいても、そして誰であっても、心を鎮めて、耳を澄ませば、聖なる刻を見出すことができるのだろう……。

『天路の旅人』 沢木耕太郎 新潮社（二〇二三年）、三五八頁～三六一頁（部分抜粋）

（注1）青稞<sup>せいこ</sup>とは、チベットの主食ツアンパの原料となるハダカムギのことである。

問一 傍線部（ア）～（オ）と同じ漢字を用いる語として正しいものを、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は(17)～(21)。

（ア）サンケイ

- (a) サンヤを駆け回る
- (b) 意見にサンセイする
- (c) サンゴショウが美しい海
- (d) コサンの社員

（イ）トッパウ

- (a) トッテをつかむ
- (b) トッパン印刷
- (c) トットリ県に行く
- (d) トッシュツした才能

（ウ）チヨウヨウ

- (a) 税金をチヨウシュウする
- (b) チヨウチヨが舞う
- (c) チヨウシに乗る
- (d) 新しい店にチヨウダの列ができる

た視力をさらに悪くする原因でもあったが、西川はこの静けさの中に在る時間が好きだった。誰もが寝静まったあとと階上のイシ師の部屋からは勉強している気配が伝わってくる。この僧舎で起きているのは二人だけ、しかもレベルは違うものの仏教の学びをしている。それが心を暖かくしてくれたのだ。

聖なる場所における聖なる時間。

しかし、そこに身を浸しながら、西川はこんなことを思ったりしていた。

確かに自分はデブン寺という聖なる場所にいる。そしてイシ師という存在と共にあることで聖なる時間を味わうことができている。だが、聖なる時間、聖なる刻というのは、聖なる場所でしか味わえないというものでもないのではないか。

たとえば、カリンポンの物乞いの巣窟。

B

カリンポンの物乞いの巣窟というのは、この聖なる場所とは対極にある場所だったかもしれない。貧しく、不潔な場所の中でもとりわけ卑なる場所であるだろう。

② それでも、自分は、その卑なる場所で、何度となく聖なる刻を味わうことがあった。

驚くべきことに、カリンポンの物乞いには、単に街頭や家々を訪ねて喜捨を受けるだけでなく、実際の労働によって臨時の収入を得る機会があった。

え

、カリンポンの街の住人たちは、家に死人が出ると、焼き場まで死体を運んでもらうために、物乞いたちを雇うことが多かったのだ。

また、それとは別に、物乞いたちは結婚式でも臨時収入を得ることができた。カリンポンに住むネパール人は、結婚式の前に、花嫁は花嫁の住む地域に、花嫁は花婿の住む地域に赴き、それぞれ輿こしのようなものに乗って顔見せのために練り歩くという風習があった。その担ぎ手として、巣窟たむろに屯する物乞いを選ばれることが少なくなかったのだ。ネパール人を雇うより安くすむということもあったが、物乞いに多いチベット人の方が屈強で、担ぎ手として長い時間耐えられると思われていたからだだった。

お

、冠婚葬祭のうちの「婚」と「葬」において、物乞いたちは臨時の収入の機会があったのだ。

自分は、足の凍傷のために担ぎ役にはなれなかったが、皆と一緒に火葬場に行き、喪主が用意した食べ物を貰ったり、時には布施金のようなものを受け取ったりすることがあった。

そんなとき、焼き場に薪が積まれ、そこに死体が置かれると、運んできた物乞いたちの口から小さく「オムマニペメフム」<sup>③</sup>の真言

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

九月に入ると、キチュ河一帯の盆地は実りの秋を迎える。畑の青稞(注1)や小麦やトウモロコシが黄金色に輝くようになる。デブン寺の建物も人々の手による化粧直しになって、豪華さを増す。ダライラマがデブン、セラ、ガンデンの三寺(ア)にサンケイするのを迎えるため、外壁は石灰で真っ白に塗られるのだ。

九月上旬、ラサとデブン寺を結ぶ五マイル(約八キロ)の大道にはダライラマの行列が続いた。

翌日、デブン寺の大学堂ではダライラマを玉座に迎えての大供養会が行われた。万余の僧が列をなし、三跪(さんき)の礼をしてハタクを献じる。ダライラマはアデスをし、赤い紐と白い丸薬のようなウリルを授ける。多くのラマ僧が涙にむせんでいたが、西川は話の種になるというくらいの感想しか抱かなかった。

あ、ダライラマは美少年で気品があった。

い、秋日和の好天の日にも、午後はトッブウ(イ)が吹くようになる。

九月十七日から十月十六日までは一年生も最終学期の進級試験を受けることになる。しかし、それは経典の暗唱であり、西川には苦もないものだった。

十月二十五日、ツォンカバ入滅の灯明会(とうみょうえ)が終わると、十一月の新学期が訪れる。西川も二年生に進級した。この頃にはデブン寺で暮らすラマ僧としての生活に慣れ、周囲の蒙古人のラマ僧たちからも信頼されるようになっていた。

服はイシ師の先生がくれたものを着つづけていたが、靴は西川の大きな足に合わなかったため素足のままだった。

当初は春から夏だったため我慢できたが、秋から冬にかけてが厳しかった。冬は零下二十度にも下がる。夜の勤行を終えて凍るような石畳を素足で歩いて部屋に帰るのはつらかった。だが、<sup>①</sup>それも修行だと思って、耐えた。

貧乏な新参ラマの西川は不当なほど廟(ウ)のチョウウヨウに駆り出された。かわいそうだ先輩のラマ僧たちは憤慨してくれたが、ひとりイシ師だけは「A」と言って取り合わなかった。

日本人には慣れ親しんだ考えだが、遊牧民的な蒙古人にはない考えで、西川は逆に感動した。

そのイシ師も、西川の裸足には心を痛め、何度か門前の市の古い靴を商う店に行き、靴を買ってくれようとしたが、大足の西川の足に合う靴がなく、諦めざるをえなかった。

う、西川には、そうしたイシ師の思いやりが嬉しかった。<sup>(エ)</sup>一日のすべてが終わる午後の九時頃からが本当の自分の時間だった。ナタネ油の灯火の下で経典に向かう。これがあまりよくなかつ

問六

傍線②「ひとはまたつねに原典を読むように心掛けねばならぬ、」とあるが、作者はなぜ、そう考えているのか。最も適切なものを、(a)～(e)のうちから一つ選べ。解答番号は(14)。

- (a) 解説書や参考書が最も信頼し得る書物であるから。
- (b) 原典はつねに最も信頼し得る書物であるから。
- (c) 新刊書ばかり漁って古典を顧みないとディレッタンテイズムに陥る危険があるため。
- (d) 原典を読むことによって自分自身の考えを得ることができるから。
- (e) 読書の経済化、簡易化を意味しているから。

問七

傍線③「何が善い本であるかを見分ける」のために、どのような方法が適切か。(a)～(e)のうちから最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(15)。

- (a) 古典だけを読む。
- (b) 他人の意見に全面的に頼る。
- (c) 自分に適した本を見つける。
- (d) 定評のある本だけを読む。
- (e) 新刊書は避ける。

問八

あなたのこれまでの本の読み方について具体的に一〇〇字～一二〇字で述べよ。まず、具体的な例を挙げて、どのように本を選び、読む際にどのような方法を使っているのか、そして読んだ後にどのように内容を整理し、理解しているのかを述べよ。次に、今回の論説文を読み、その内容についてあなたが学んだことや考えたことを述べよ。特に、自分のこれまでの本の読み方と比較して新たに気づいた点や、今後改善したいと思った点について述べよ。解答番号は(16)。



問三 空欄 A に入る語として最も適切なものを、一つ選べ。解答番号は(11)。

- (a) 善い本は必ずしも読み易い本ではない。
- (b) 善い本は必ず読み易い本である。
- (c) 悪い本は必ずしも読み易い本ではない。
- (d) 悪い本は必ず読み易い本である。
- (e) 善い本も悪い本も読みやすくあるべきである。

問四 空欄 B に入る語として最も適切なものを、一つ選べ。解答番号は(12)。

- (a) むつかしい本、大きな本
- (b) 善い本、悪い本
- (c) 古典の本
- (d) やさしい本、読者に媚びる本
- (e) 解説書、参考書

問五 傍線①「この点」はどの点を指しているか、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(13)。

- (a) 読書の順序を追うこと
- (b) 古典を読むこと
- (c) 悪い本を避けること
- (d) 新刊書を読むこと
- (e) 善い本は本質的に理解し易いこと

問一 傍線部(ア)ゝ(オ)と同じ漢字を用いる語として正しいものを、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は(1)ゝ(5)。

(ア) カンヨウ

(a) カンジンな話

(c) 親切にカンシヤする

(b) 北日本がカンキに覆われる  
(d) カンコドリが鳴く

(イ) ユウエキ

(a) ユウシユウな人材を輩出する

(c) ユウシユウの美を飾る

(b) ユウビなドレス  
(d) 新聞のユウカン

(ウ) カンシキ

(a) 城がカンセイする

(c) 美術カンシヨウをする

(b) カンサイ地方の言葉  
(d) カンペキな人は存在しない

(エ) チクセキ

(a) セキジュンを決める

(c) 相撲のセキトリ

(b) ガンセキが落ちてくる  
(d) 大きなソウセキウンが出ている

(オ) ヘンキヨウ

(a) キヨウリユウの化石

(c) キヨウハク観念に襲われる

(b) キヨウシヨウの家  
(d) 被災時のキヨウケン

問二 空欄 あ お に入る語として最も適切なものを、それぞれ一つずつ選べ(各語の使用回数は1回)。解答番号は(6)ゝ(10)。

(a) そのうえ

(b) すでに

(c) しかし

(d) もちろん

(e) そして

原書を読むには語学の力がなければならないが、その語学というものも決して手段に過ぎないようなものではなく、却<sup>かえ</sup>って語学そのものが一つの重要な教養である。一つの国語はその民族の精神の現われであり、その思想のチクセキ<sup>(エ)</sup>であることができる。勿論あらゆるものを原語で読むことは不可能であり、またあらゆる場合に原語で読まねばならぬというわけではない。原語で読むことができないという理由でそれを読まないというのは悪い口実である。また翻訳で間に合わせて十分な書物も多い。しかし重要な本はできるだけ原語で読むようにしなければならぬ。翻訳の方が簡単であるからというので原語で読むことを避けようとするのは読書における便宜主義であって、便宜主義は読書においても有害である。

善い本を読まねばならぬことは明かであるにしても、何<sup>③</sup>が善い本であるかを見分けることは容易でない。古典といわれるものは善い本であるに相違ないが、その古典も多数であって選択が必要であり、殊<sup>こと</sup>に新刊書の場合においては選択は愈々<sup>いよいよ</sup>困難である。自分ですべての本に当たってみることは不可能であるとすれば、読書の指針として他人の挙げた目録とか新刊紹介とかに頼らねばならず、

お

定評のあるものを読むようにしなければならぬ。しかしながら定評とか他人の意見とかにばかり頼るということは危険である。読書においてもひとは自主的でなければならず、発見的であることが大切である。各人は自分に適した読書法を見出さねばならぬように自分に適した本を見出すことに努めなければならぬ。単に自分に媚びるというのではなく、自分に役立ち、自分を高めてくれるような本を読むようにしなければならぬ。各々の人間には個性があるのであるから、一人の人間に適する本がすべて他の人間にも適するというわけではない。読書においても個性は尊重されねばならぬ。一般に善い本といわれるものの中でも自分に適したものとそうでないものとが自分の個性によって決ってくる。読書においてひとは何よりも特に古典の中から自分に適したものを発見するように努力しなければならぬ。それによって自分の思想というものを作られてくるのであり、愛読書といわれるものも定まってくるのである。愛読書を有しない人は思想的に信用のおけない人であるときえ云うことができるであろう。自分に適した善い本が決ってくれば読書もおのずから系統立ってくるのであって、即ちそれと同じ系統に属する書物を、或いは過去に遡<sup>もと</sup>り或いは現代に降<sup>くだ</sup>って、読むようにすれば好い。固より他の系統のものを読まなくても好いというわけではなく、却<sup>かえ</sup>ってヘンキョウ<sup>(オ)</sup>にならないために博く読むことはつねに必要なことである。けれども無系統な博読は濫読に過ぎない。

『読書と人生』 三木清 新潮文庫（一九七四）、一二〇頁、一二六頁部分抜粋

尚古主義にもまた限界がある。アカデミズムに対してジャーナリズムには独自の意義があるように新刊書を読むということにもそれ自身の意義があるのである。時代の感覚に触れるために、また今日の問題が何処にあるかを知るために、ひとは新刊書に接しなければならぬ。新しい感覚をもち新しい問題をもって対するのでなければ古典も生きてこないであろう。すべて過去が活かされ、伝統が甦<sup>よみがえ</sup>ってくるのは現在からである。古典を顧みないというのは固より悪いことであるが、新刊書を恐れるというのも正しくないことである。古典は安心して読むことができる本であるに對して、新刊書を読むことは一種の冒険である。

るのでなければ得ることがないであろう。古典を偏愛して新刊書を嫌悪する者において読書は単に趣味的になる傾向があり、一種のディレッタンティズムに陥り易い。しかしまた新刊書ばかり漁って古典を顧みない者も他の種類のディレッタンティズムに陥る危険がある。読書にも年齢があり、老人は古典的なものを好み、青年は新しいものを求めるといのが普通である。青年が新刊書を喜ぶということはその知識欲の旺盛を示すものであって排斥すべきことではないが、しかしそこにはまた単なる好奇心の虜になる危険もあるのである。古典のために新刊書を軽蔑することなく、新刊書のために古典を忘却することのないようにするのがカンヨウである。

古典を読むことが大切である如く、<sup>②</sup>ひとはつねに原典を読むように心掛けねばならぬ、解説書とか参考書とかを読むことも固より必要ではあるが、本質的には原典を中心としてこれに頼らねばならぬ。原典はつねに最も信頼し得る書物である。例えばプラトンとかカントとかについて千の文献を読むにしても、原典を読むこと、これを繰り返して読むことをしないならば、深く根本的に学ぶことができぬ。第三者の書いた解説書よりも原典は本質的な意味においては一層理解し易いものである。多数の参考書を読むよりも一冊の原典を繰り返し読むことがそのものを掴むのに結局近道である。

え 原典は屢々解説書よりも短いという利益を有している。

原典を読むことは読書を単純化するに必要な方法である。それは何よりも読書の経済化、簡易化を意味している。前に述べた規則的に読むという必要は原典の場合において特に大きいであろう。本はひとに読んで貰うのでなくて自分自身で読まねばならぬとすれば、この自分自身で読むという必要は原典の場合においては絶対的である。然るに世の中には文学上の作品についてさえ、それを自分で読まないで、他人の書いた解説や批評ばかりを読んでいる人が少くないのである。ひとはつねに源泉に汲まねばならぬ。源泉はつねに新しく、豊富である。原典を読むことによって最も多く自分自身の考えを得ることもできるのである。

原典を読むことが必要であるように、できるだけ原書を読むようにすることが好い。どのような翻訳よりも原書がすぐれていることは確かである。原書の有する微妙な味、繊細な感覚は翻訳によって伝えられることが不可能である。そのうえ翻訳はすでに解釈であるということを知らねばならぬ。ひとは原語で読む困難を避けてはならない。翻訳で読むのが原書で読むのよりも速いということはあるにしても、ゆっくり読むことはそれだけ自分で考えながら読む余裕を与えることにもなるのであり、そしてこれは大切なことである。

一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

如何に読むべきかという問題は何を読むべきかという問題と関連<sup>かんれん</sup>している。ひとは凡て<sup>すべ</sup>の書物を同じ仕方<sup>かた</sup>で読むことはできないし、また同じ仕方<sup>かた</sup>で読むではならぬ。博く<sup>ひろ</sup>読むためには書物の種類に従って読み方を変えなければならない。そこに読書の技術があるのである。

何を読むべきかに就<sup>つ</sup>いては、

あ

、善いものを読まねばならず、悪いものを読んではならぬということは明かである。悪い本を読むことはそのこと自身無益であるばかりでなく、悪い本を読んでいるうちには善いものと悪いものとを区別することができなくなってしまふという危険がある。ひとはただ善いものを読むことによって善いものと悪いものとを見分ける眼を養うことができるのであって、その逆ではない。

A

大きな、分厚な、むつかしい本であるからといって避くべきではなく、その方面で最も善い本を読むように努めなければならぬ。読書においても努力が大切であり、

い

B

ばかりを読んでいては、真の知識も教養も得ることができぬ。一度でその本が全部理解されなくても好い、ともかく善いものにぶつかってゆくことがカンヨウである。もし一度で理解することができなければ、暫らく<sup>しば</sup>間をおいて再び読むようにするが好い。努力して読書する習慣を作ることが大切である。尤も<sup>もつ</sup>、むつかしい本、大きな本がつねに善い本であるという風に誤解してはならぬ。それはペダンチックな人の陥る誤解である。善い本は本質的に云ってすべて理解し易い本であるというのみでなく、初めから困難なしに読める本にも善い本は多いのである。そして読書においてぶつかる困難を克服するためには系統的に読むことが大切である。読書も無秩序であっては益がなく順序を追うて読むようにしなければならぬ。先輩の意見を聞くことがユウ<sup>ユウ</sup>エキであるのは何よりもこの点についてである。

一般に何が善い本かといえ、もちろん古典といわれるような書物である。古典は歴史の試練を経て生き残ってきたものであり、すでに価値の定まった本である。古典は決して旧く<sup>ふる</sup>なることがなく、つねに新しく、つねに若々しいところを有している。古典を読むことによってひとは書物の良否に対するカンシキ眼を養うことができるのである。古典を愛しないような真の読書家はなく、古典についての教養を有しないような真の教養人はない。古典はつねに安心して読むことができ、幾度繰り返し読んでもつねに新たな利益を得ることのできるものである。かように価値の定まった本を読むように心掛けねばならぬところから、人々は屢々<sup>しばしば</sup>、古典というほどでなくとも既にいくらかの年数を経てなお読まれているような本を読むことにして、新刊書をすぐ手に取ることはやめねばならぬという風に忠告している。これは確かにユウエキな忠告である。ただ新刊書ばかり漁<sup>あさ</sup>るのは好くないことに相違ない。しかしながら読書における

# 国 語

問題 21 ページ～ 10 ページ

設 問 数 32



